当院における医療安全活動
～院内メールを使用した、情報交換の取り組み～

独立行政法人国立病院機構　静岡医療センター
佐々木麻里子

はじめに

当院は、医療安全研修を含め年間約 78 件の研修会が行われており、その中で、医療安全管理加算の施設基準に定められている研修は、隙間を縫うように開催している。

研修後も、参加したことで完結してしまい、継続して実践されていることが本来の目的であると考えるが、うまくいっていないのが現状である。

参加することだけが義務となってしまわないよう、参加率を上げつつ、職員の関心も高め、現場に浸透させ実践につなげるためには何か方法に一工夫することが必要と考える。

一つは、医療安全担当者部会のメンバー（以下リスクマネージャー）が、各部署でリーダシップを発揮しながら、現場で研修内容を実践していきながら浸透させていくということ、そしてもう一つは、情報交換の場として院内メールを活用していきたいと考えた。

医療安全管理室で企画する研修は、集合研修（現場を離れた研修）が主に行われるが、今回、KYT 集合研修の実施後、各部門のリスクマネージャーが現場で KYT を展開し、その後、院内メールを使用し意見交換した活動についてのアンケート結果を報告する。

実施期間および方法：平成 24 年 6 月から 10 月

１）6 月中旬　医療安全推進担当者部会で講義
２）6 月下旬　全職種を対象とした集合研修
３）7 月から 9 月末日　①各部署で 1 回以上の KYT の実施を課題とする
②院内メールを使用し行動目標の宣言を行う
③院内メールを使用し意見や感想を述べる
４）10 月　アンケート実施

考察

集合研修に加え、部署ごとに KYT を実施したことで、実施参加者数は増加した。

各部門で行われている、医療安全活動を院内メールを使用し提示することは、メンバー同士の情報交換に有効だった。

各部門の医療安全の活動を、会議室で発表することも一つ方法だが、日々時間に追われる、医療現場の中では、院内メールや掲示板（院内ホームページ）を利用することで、時間の制約なく、好きな時間に自由に閲覧できる点でも、効果的に使用できると考える。また、アンケートの結果で、“褒められたことがうれしかった”といった意見もあるように、自分の行った取り組みに対し、周囲からまた幹部から褒めてもらうことができることも、次の行動につながる、励みに大いになる。

自部署の取り組みに対し、メールを通し意見交換できることは、プラスの相乗効果を生むことが期待できた。

（平成 24 年度「医療安全管理シンポジウム」東部地区）